

【ESD学習支援活動】

奈良市富雄第三小中学校 第7回ユネスコ委員会 支援報告書

奈良教育大学 学部1回生 守部北斗

1. 実施日 平成29年11月8日(水) 14:00~16:00
2. 場所 奈良市富雄第三小中学校 第一理科室
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣 徹
社会教育専修 学部1回生 仲村幸奈
英語教育専修 学部1回生 守部北斗
奈良市富雄第三小中学校 中学部生徒 21名
奈良市富雄第三小中学校 教員 3名



選任後の初仕事の様子

4. 内容

【全体】

- ・後期新三役（正副委員長、書記）の選任
- ・前期の活動の振り返り
- ・後期への引き継ぎ内容の確認

【ビオトープ班】

- ・後期の活動計画についての話し合い
(ビオトープ整備の計画)

【国際交流班】

- ・前期の活動の振り返り
(ハロウィンパーティーの反省)
- ・後期の活動計画についての話し合い
(クリスマスパーティー・ビデオレター作成の計画)

5. 活動支援報告

前半はビオトープ班・国際交流班合同で活動が進み、後半は主にビオトープ班の活動支援を行った。今回の支援で私が感じた以下の2点を報告したい。一つ目は生徒の自主性、二つ目は生徒の計画的な話し合いについてである。

一つ目の、生徒の自主性について。新役員は名指しではなく挙手制によりおよそ5分で決定した。印象に残ったことは、委員長に立候補した生徒が仲間呼びかけて副委員長として一緒に頑張ってみないかというまなざしを向けていたこと、書記を担当することになった生徒は前期から引き続いて同じ役員をしていたこと、そして教員や他の生徒から強制されることなくスピーディーに役員が決定したことである。以上より、教員が生徒の自主性を尊重するというポリシーで委員会活動を築き上げていることを体感した。生徒の自主性を引き出すには、教員と生徒の意見が共有できている環境が必要不可欠だと考えた。

二つ目の、生徒の計画的な話し合いについて。まず初めに教員がビオトープの現状を再度確認し、今後の活動において何が求められているかを生徒に考えさせるよう促していた。具体的には、次の小学部・中学部合同の委員会活動日（12月6日）までにすべきことは何かということや、ビオトープを整備するために特に小学部低学年の児童に何をどのように伝えるかといったことだ。その後、生徒同士また我々学生とも話し合い、以下のことが決定した。①12月6日までに、できる限りビオトープで採れた木材を使い、注意事項を記した立て札を作製する。②12月6日以降、小学部の児童と中学部の生徒がともに低学年の各教室に出向き、注意すべきことを再度伝える。③校内にその旨を伝えるポスターを掲示する。

継続して委員会活動に参加する中で、生徒たちの主体的な働きによって活動が本格的に動き出す様子の感じ、今後の活動成果に胸を弾ませている。